

<株式会社エフエム東京 第 510 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 6 年 7 月 2 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル 委員長	佐々木 俊尚 委員
松田 紀子 委員	山口 真由 委員
柴崎 友香 委員	福里 真一 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（6 名）

唐島 夏生	代表取締役会長
黒坂 修	代表取締役社長
内藤 博志	取締役編成制作局長
宮野 潤一	編成制作局次長 兼 編成部長
山領 由紀	編成制作局制作部長
原田 洋子	編成制作局報道・情報センター部長

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（60 分）  
TOKYO FM 報道特別番組『能登半島地震から半年～なりわいの海を見つめて』  
2024 年 6 月 29 日（土）6：00～7：00 放送

<議事内容>

議題 1:最近の活動について

■村上春樹プロデュース「村上 JAM vol.3」開催報告

作家の村上春樹がパーソナリティをつとめる番組「村上 RADIO」発の 3 回目のライブイベントとなる「村上 JAM vol.3」を 6 月 29 日、30 日に開催いたしました。vol.1 は渡辺貞夫など豪華ゲストを招き 2019 年 6 月に開催、vol.2 は 2021 年 2 月に開催し、「ボサノバ」をテーマに小野リサを中心としたスペシャルバンドでの演奏を披露。いずれも TOKYO FM ホールで開催しました。

そして vol.3 となる今回のテーマは「フュージョン」。「BLUE NOTE TOKYO」と協業して海外アーティストを招き、6 月 29 日に過去最大キャパシティの「すみだトリフォニーホール」(1,700 席)、翌 30 日には「BLUE NOTE TOKYO」(300 席)で実施しました。

音楽監督を務めた大西順子のリードのもと、ギターの Mike Stern (マイク・スターン)、ベースの John Patitucci (ジョン・パティトゥッチ)ら一流ミュージシャンによる豪華バンドが、マイルス・デイビスの「ジャン・ピエール」「ディレクションズ」、チック・コリアの「スペイン」などフュージョンの名曲を熱演。両会場に集った観客を沸かせました。

タイトル : 村上 JAM vol.3 ~熱く優しい、フュージョンナイト

開催日時 : すみだトリフォニーホール / 2024 年 6 月 29 日 (土)  
BLUE NOTE TOKYO / 2024 年 6 月 30 日 (日)

出演 : 村上春樹 (プロデュース・MC)、坂本美雨 (MC)  
大西順子 (Piano・音楽監督)、Takuya Kuroda (Trumpet)  
Eric Harland (Drums)、John Patitucci (Bass)  
Kirk Whalum (Sax)、Mike Stern (Guitar)



▲6 月 29 日 (土) すみだトリフォニーホール、ライブの様子 (左) と集合写真 (右)



▲MCをつとめた村上春樹と坂本美雨（左）、音楽監督の大西順子



▲John Patitucci (Bass) (左)、Mike Stern (Guitar) (右)

## ■ギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞受賞について

5月31日、放送批評懇談会が主催する第61回「ギャラクシー賞」が発表され、当社が制作した特別番組「TOKYO FM 小澤征爾追悼番組『セイジ、フォーエバー』」（2月26日月曜20時00分～20時55分放送）が、ラジオ部門において優秀賞を受賞しました。

長年クラシック音楽界で活躍、多くの音楽家を育てた世界的指揮者小澤征爾さんが2月6日に逝去。TOKYO FMでは小澤征爾さんを偲んで、局に残された小澤征爾コンサートアーカイブ音源を軸に

、ゆかりのある方々のメッセージ、コメントを交えて、マエストロの人柄、仕事、音楽的遺産を伝えるべく追悼特別番組を制作しました。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

TOKYO FM 報道特別番組『能登半島地震から半年～なりわいの海を見つめて』  
2024 年 6 月 29 日（土）6 : 00～7 : 00 放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、6 月 29 日（土）に放送予定の TOKYO FM 報道特別番組『能登半島地震から半年～なりわいの海を見つめて』です。

TOKYO FM では、能登半島地震後の 2 月から海女歴 40 年の早瀬千春さんと夫で漁師の秀栄（しゅうえい）さん、その兄・輝邦（てるくに）さんを取材し、番組内でお届けしてきました。輪島市は石川県で一番漁師の数が多く、海女も 80 代から若い人まで約 130 人が仕事をしていました。これまでの取材でも早瀬さんは、海に入れない事への辛さと、海の中の地形の変化を心配し、早く海に入って、海の中を確かめたいと話していました。

今回は、能登半島地震発生からまもなく半年の節目となる 6 月、3 度目となる現地取材に向かいました。そのきっかけは、早瀬さんから調査で海に潜ったとの連絡が届いたこと。約半年ぶりの海へと一步を踏み出した早瀬さんの今の気持ち、そして、その地形ゆえになかなか大規模な作業に入れない能登半島で、隆起してしまった海底を掘り下げる浚渫（しゅんせつ）作業に向き合う漁業組合の方々にも話を伺いながら、海と共に生きる能登の現在をお届けする特別番組です。

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○2 回試聴したが、半年の間に数回取材をしているということで、その変化や経過が分かって想像しやすかった。海の様子や匂い、周りの雰囲気語っていて、映像で見るよりも、実際に見た人の言葉で伝えるのはリアルに伝わってくるんだと改めて思った。テレビでニュースを見ているだけでは分からない部分が伝わってきた。

○浚渫の様子など、普通の人にはなかなか普段接することのない工事のことや海の中の見えない部分の苦労なども伝わって来て、現地の大変さが良く分かった。特に、千春さん「海がなければ街を捨ててもいい」という言葉には本当にハッとさせられた。海を生業にして来た方ならではの言葉だった。それは地震で家が壊れてしまい大変ということを超えた、その場所でやってきた生業との結びつきで、その後女性たちが再会して話しているその会話も、本当にリアルで、そこで暮らしてきた人のコミュニティや普段の様子が伝わって来てとてもリアルだった。一方で、「前向き」とか「未来に向かって」という言葉が後半に多く聞こえてきた。千春さんが前向きということで自分に言い聞かせているみたいなことを言っていたのは、当事者がそういう風にいうのはもっともだと思うが、被災地から遠く離れたところにいる側が、あまり前向きというのを強調しすぎるのは違う気もした。番組から、支援を続けていくという言葉もあったので、具体的に何ができるのかということを紹介したり、これからも継続して取材をしてほしいと思う。

○能登の海に生きる海女さんのとても限定的な視点で伝えられていたが、海で生業を立てていた人ならではの心からの強い言葉が響く番組だった。建前とかは一切おいて、海女さんならではの、実際にその目で見たものだけを語るという潔さのある番組だと感じた。

○早瀬さんから「海の中がどうなっているのか早く頭の中の地図と照らし合わせたい」「水圧を感じたい」「どうにか前に進まなきゃいけない」など、心の強さというか、決断みたいなところが非常によく表れた言葉が出てきて胸を打たれた。また、海女さんたちが集まって輪島の言葉で楽しそうに話していたシーンについて、「輪島の言葉はきつから避難先では話せない」ということを言っていて、言葉はアイデンティティだったりするので、故郷を追われる側の辛さみたいなものを端的に表しているなどと思った。テレビだと映像にどうしても目がいってしまうが、地元の方の言葉を素直に出していくというラジオならではの説得力が感じられる番組だった。

○1 つ残念だったのは、早瀬さんが実際に海に入った後にどうだったかという感想

を、アナウンサーが紹介していて、これこそ早瀬さんの言葉で聴きたかったと思った。

○こういう番組を継続していることはすごいと思う。震災直後の情報や、節目とかではなく、誰に命じられるわけでもないのに継続するというのは本当に素晴らしい。ケースは違うが、東海テレビというテレビ局がジャーナリズムを問いかける CM を放送している。その中で過去に東日本大震災を扱ったものもあって、それは、例えば、震災の 1 年後の 3 月 11 日は各地で式典がありマスコミもたくさん集まる、その映像の後、「その翌日」というタイトルが出て、もうそこに誰もいないということが映される。または、震災の後、復興バブルのような状態があって仙台の飲み屋街は史上空前なほどに客が増えて、飲み屋のママが「いやー、儲かっちゃって大変なのよ」と半笑いしてるなど、喜んでいる側も映したり、中には、現地で取材しているとマスコミ拒否の人もちろんいて、「来るんじゃねえよ」とか「何も話すことなんかねえよ」みたいに言われたりする、それもそのまま CM にして報じている。こうやって継続して報じていくことで、みんなが前を向いて頑張っていることだけじゃなく、「そんなこともあるんだ」ということが、今回の番組でも出てくるんじゃないかなと思った。

○音だけだとむしろしっかり聴くんだなということも発見だったが、一番驚いたのは FM でこのようなドキュメンタリー特番を制作すると、音楽がしっかりかかるんだなということに驚いた。可能性として、誰か DJ 的な人が立って、その人がテーマに沿って選曲して、選曲理由がコメントでインサートされるのもありかなと思った。

○震災に関連した番組はやや義務感に駆られて聴いてしまうが、この番組はコンテンツとして聴けると思った。この番組自体が長い時間をかけた丁寧なものであること、早瀬さんという 1 人の人間の血肉のある言葉ということがもちろんあるが、同時に能登半島地震はテレビでやってもそんなに視聴率が落ちないと聞いた。日本の田舎というのは多くの人にとってある種他人ごとになっているから、そんなに身につまされて、もう辛くて見てられないみたいな感じにはならないという部分があるのかもしれないと思った。

○1 人の人を長い時間をかけて紡ぎだしたことで、その人が立体感を持って感じられた。いまだに一時避難で体育館に 1000 人近くいる、ビニールハウスで暮らしている人がいるとテレビ報道で聞いたが、全然復興が進まないなと感じてしまうが、実は復興の遅れではなくてその人たちが動かないという。なぜ移動しないのか、こんな時期にビニールハウスで暮らすのは健康面でもいろいろ良くないと思うが、「ここを離れることができない」のだという。そういうテレビ報道では分からないことが浮かび上がってきてとても腑に落ちる番組だった。

○海女さんたちが再会するシーン、彼女たちは絶対に元通りにならないということは頭の隅にあって、それでも必死に自分を鼓舞して元通りにする、と向き合っている。それは海女さんたちの言葉だから響くのであって、パーソナリティや記者が「未来に」というと、急にきれいごと感が出てきてしまい、せっかく丁寧当事者の視線に寄り添ったのに、「これで前に進むね、良かったね」で終わってしまう気がして残念だった。

○バランスのとれたいい番組だと思った。阪神大震災とも東日本大震災とも違って、能登半島のような場所で震災が起きるのは日本の近代史以降まれにみる事態。例えば仮設住宅を建てるにもまず土地がない。平野部が非常に少ない。復旧に関しても沿岸部の道路は崩れて使うことができない。のと里山海道は、ようやく応急処置が終わって、やっと通れるようになったっていうのがつい先日という状況。阪神大震災は神戸港が大活躍して海から物資を運ぶことができたが、今回の能登は海が最大 4 メートル隆起して港が全く使えなくなったという。番組の中でも浚渫の話題が出てきたが、本当ににっちもさっちもいかない状況で、でも現場では苦心惨憺している。でも報道を見ていると「国は何をやっているんだ」「自治体は何をやっているんだ」のオンパレード。「能登は見捨てたのか？」とまで言う人も出てきている。なんで現地のこの状況が伝わっていないのだろうと忸怩たるものも多くあるが、今回の番組はきちんとそこを抑えていると思った。漁業に携わっている人たちの話を聞きつつも、同時になんで復興が進まないということもきちんと自治体取材している。現場的なミクロの視点と、国全体のようなマクロの視点があると思うが、日本のメディアは異様にミクロの視点を重視する風潮があって、これを現場至上主義みたいな言い方をしている。現場さえ見ていれば全てが分かるんだと考えたがる。確かに現場は大事だが、現場だけ見ていると全体を捉えることはできない。この番組はきちんとマクロの視点もカバーしていてバランスが良かったと感じた。一方で、漁業の人たちの苦悩というミクロの声も拾い上げていてそこもいいなと思った。今後の復興にも一筋縄ではいけないたくさんの課題を抱えているエリアだが、ぜひこの地の取材を続けてほしいと思う。

○この番組の放送日の新聞で、被災地となった輪島市の 4 地区が集団移転をすることが検討されていると発表されていた。番組の内容と結びついた人はいなかったかもしれないが、とても象徴的だと感じた。救急車が入っていけない地、ということがどういうことか、復興がなかなか進まないのはなぜなのか、聴く人には伝わったのかと思う。生業の海というタイトルも秀逸で、海を生業にしている方の声を時系列で聴くことができたのが良かった。

○最後に支援をやっていくということがあったから救われたが非当事者が未来を語るということはすごく難しいこと。絆とか、未来とかそういう言葉を並べるのではなくて、早瀬さんたちの言葉、例えば「とりあえずモズクを採りましょう」とか

そういうことが何よりも絆であり未来。遠く離れた非当事者が使う文法より遥かに訴求力があって深く届くと思う。

■貴重な意見をたくさん頂いた。特に、当事者の言葉で最後のところがまとめられてなかったというのは大きな反省点だった。みなさんからご指摘いただいたということはそのように感じるリスナーも多かったかもしれない。継続と言いながらも人員の問題だったり、2 ヶ月に 1 回くらいしか実際には現地に行くことができないが、今後も継続して個人の視点からとらえていくことは続けていきたいと思う。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

7月27日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>